

全員協議会会議録

- 1 日 時 平成29年6月22日(木)
12時34分開会 12時50分開会
- 2 場 所 役場3階第2委員会室
- 3 出席議員 大谷昭宣・桜井崇裕・北村光明・高橋政悦・佐藤幸一・木村好孝
原 紀夫・口田邦男・中島里司・奥秋康子・安田 薫・西山輝和
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員
- 6 議 件
(1)「清水町備災シンポジウム」(十勝清水プラス主催)の後援依頼について
(2)その他
- 7 会議録 別紙のとおり

加来議長：お昼休み中お集まりいただきありがとうございます。今日の議件「清水町備災シンポジウム」（十勝清水プラス主催）の後援依頼について、本日までには返事をする事になっているので、本日昼休みにお集まりいただき全員協議会を開催することになったのでよろしく願います。ただいまより全員協議会を開催する。

議件1 「清水町備災シンポジウム」（十勝清水プラス主催）の後援依頼について

加来議長：早速議件に入る。「清水町備災シンポジウム」（十勝清水プラス主催）の後援依頼については、皆さんのお手元に配付している資料のとおりである。8月27日に「清水町備災シンポジウム」を開催するという事で、清水町が共催するので町議会として応援してほしい旨、主催者の代表である宮崎幸夫さんが6月22日に事務局に来て依頼があった。これをどう扱うか協議いただきたい。過去にはこのような後援の依頼は議会に対してはなかったもので、皆さんの考えを聞いたうえで対応したいと考え全員協議会を開催した。事業内容は資料の2枚目にあるが、災害備蓄の「アルファ米」試食会や日勝道路の映像、災害対策WS、基調講演などが書いてある。3枚目には予算書があるが、議会には資金提供依頼はなく、あくまでも後援依頼と議員に参加してもらいたい旨の依頼である。議会に対する後援依頼は、私の記憶の中ではなかったもので、皆さんの考えを聞きたい。議会は議員個人の集まりである団体なので議会として後援をするのはよいのかどうか。また、こういう後援を一度すると今後も別のことで後援や協力の依頼が出てくるかもしれない。今の段階で我々がどういう判断をしたらよいか。今回は町も共催するという事もある町議会にも依頼があった。

口田委員：「十勝清水プラス」とはどういう団体なのか説明してほしい。

加来議長：分かる範囲で事務局より説明する。

佐藤局長：町の人材養成事業「十勝清水人・四季塾」を受講された方が四季塾の提言発表会の際に、四季塾だけで終わるのはもったいないということで、受講者が集まってこのような備災シンポジウムや第九の関係の取り組み、高齢者の買い物対応など、まちづくりについて住民自ら関わっていいということ提言し、発足した団体だと思う。団体の規約は見えていないがそのような団体である。

口田委員：団体であるが、メンバーが分からない。

加来議長：メンバーは把握していない状況。

口田委員：実際には1人かもしれない。

佐藤局長：1人ではないと思う。四季塾の発表の際には4・5名で発表があった。既に、「議会報告会と町民との意見交換会」と同じ日にICTを活用した防災の勉強会を行っている。

北村議員：昼に行われている勉強会には参加した。スマホを持っているが使い方がよく分からないとか、災害のあった時に緊急情報を受け取れるようにするにはどうしたらいいかという利用の仕方のレクチャーを受けた。高齢者学級のほうにも呼びかけたという話をしていた。スマホやタブレットの使い方の説明を受けた。「十勝清水プラス」の意味は、将来的に清水町にプラスになることを考えようとか、町民にプラスになるようなことをしようとかのスローガンを掲げたものである。先ほど事務局長から説明があったが、四季塾の3期修了生を中心に、修了生を結集してこれらのことを継続的にやりたいということで、今年度は太陽財団から助成金を得たということを知っている。

口田委員：素晴らしい取り組みだと思うが、誰がやっている団体か分からない中で後援をしていいのかと思った。

桜井議員：四季塾OBであると経緯などは分かったが、清水町が共催する意味合いがはっきりと分からないと議会としてはどうなのかなと。

高橋委員：「十勝清水プラス」の実態は今の説明の中ではただの推測に過ぎないし、何故、清水町が簡単に共催したのかというもおかしな話である。また、資料の最終ページの予算書だが、収入に対して支出が倍以上となっている。普通、予算はつじつまを合わせるもの。はじめから足りなくて、その足りない分をどこからもってくるのか分からない。そのように、不明確な中で議会が応援す

ることにはならないような気がする。

佐藤局長：予算について補足説明をする。来庁したときに若干補足説明があったが、収支的には支出のほうが大きくなっているが、不足分は町の補助金を活用できればという話をされていた。さらに不足があれば会員の中で補填するという話をされていた。町の共催の部分は、アルファ米の試食会について町が備蓄しているアルファ米で使用期限が迫っているものを味わってもらおうということで、町のものを使うということで共催という話を聞いている。

中島委員：高橋委員が言うように、そういう見通しがあるのであれば、収支のバランスをしっかりとった上で出すのが筋であるし、共催や後援を受けるのであればきちんとした説明がなければいけない。これで後援要請文ということにはならない。今後、「十勝清水プラス」は活躍してくれるだろうと思うが、今の時点でこれを議会の名で後援を出すと、これからやることについては全部、想定のことになってしまう。私は取り組んでいる姿勢は高く評価するが、議会の了解をもらうとすればある程度、町民から聞かれた時に収支等がきちんと説明できるような条件がそろっていないければ共催ということにはならないと思う。団体の活動については個人的には期待しているが、今回の後援については実績をもってもらいながらそういうことを期待しながら見送るべきではないかと思っている。

加来議長：これまで皆さんの意見を聞いて、町の補助金を使う以上、我々議会としてはチェックするほうの立場なので、共催・後援は好ましくないという意見が多いのかなと思うので、今後こういうことに関しては、議会としては取り組まないということでよろしいか。

北村委員：これからもという話をされたが、後援等についてはその都度検討されてはどうかと思う。町民が自主的にやろうとしているところに、議会として後援を申し込まれてきた流れを断る影響のほうが大きいのかなと思う。これからも後援等をやらないということを決めるのではなくて、その都度検討することでもいいと思う。

加来議長：ただいま北村議員から、「十勝清水プラス」に限らずこのような議件が出たときには皆さんと相談したほうがよいということだが、都度相談したうえで対応するということでよいか。

(はいの声あり)

加来議長：今回、議会としては後援できないということであるが、この団体の活動は評価しているので、誤解のないようお願いしたい。この件については後援しないということで決定したので、その旨伝えたいと思う。この件については終了する。

議件2 その他

加来議長：その他として何かあれば受ける。

(なしの声あり)

加来議長：今後6月27日に、町長からの申し出事項や意見書等で全員協議会を開催するので、ご協力をよろしく願います。全員協議会を終了する。